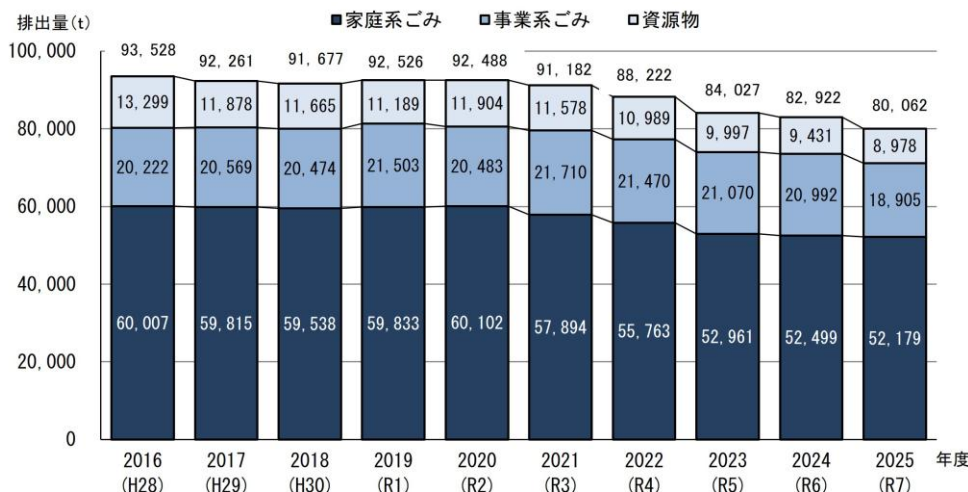


令和7年度 ごみ・資源物排出量の増減要因



R7年度の主な増減要因

家庭系ごみ R7年度排出量:52,179トン 前年度比▲320トン(▲0.6%)

- 内訳は、燃やせるごみが47,764トン(▲153トン・▲0.3%)、燃やせないごみ等が4,415トン(▲168トン・▲3.7%)
- 前年度に引き続き、国内において物価高を背景に消費動向が低調で推移しており、そのことがごみ排出量の減少に影響しているものと考えられる。(参考:消費動向指数)
- 人口減(▲765人)≒▲131トン

事業系ごみ R7年度排出量:18,905トン 前年度比▲2,086トン(▲9.9%)

- 内訳は、燃やせるごみが18,673トン(▲2,062トン・▲9.9%)、燃やせないごみ等が233トン(▲24トン・▲9.3%)
- クリーンセンターの基幹的設備改良工事の関係で処理能力が減少したことから、公共事業に伴い排出される剪定枝や刈草等を資源化施設へ搬出したことや、事業者に対しても資源化施設への搬入を依頼したことにより大きく減少している。

資源物 R7年度排出量(市収集分)8,978トン 前年度比▲453トン(▲4.8%)

- 市収集分の8,978トンの内訳を見ると、飲料缶以外の資源物で排出量が減少しており、特に古紙類(▲243トン・▲5.8%)の減少量が大きいほか、金属類(▲6.9トン・▲2.2%)の減少率が高い。デジタル化の進展による紙使用量の減少や金属価格高騰を背景とした資源物の持ち去り行為による影響が考えられる。
- 市収集分のほか、市内における資源物の回収状況は次のとおりとなっており、市のステーション収集からスーパーマーケット等の店頭回収に資源物が流れていることが考えられる。また、資源回収業者による拠点回収等においても、古紙類が大きく減少している。

収集方法		R7排出量	前年度比
市ステーション収集		8,978トン	▲453トン(▲4.8%)
集団回収		496トン	▲121トン(▲19.6%)
スーパーマーケット等の店頭回収		235トン	▲17トン(▲6.7%)
資源回収業者による拠点回収等		3,937トン	+113トン(+3.1%)
事業者の独自処理 (市外搬出)	木くず・草	2,566トン	+909トン(+55%)
	食品廃棄物	573トン	+70トン(+14%)